

目次

◇情報

- ▽「電気通信アクセシビリティガイドラインの国際標準化／総務省」
- ▽「インターネット版 全国車いす宿泊ガイド／全脊連」
- ▽「耳マーク掲示／りんかい線」
- ▽「異常時案内用ディスプレイ設置／JR 東日本」
- ▽「『手話』授業の特区申請へ／東京都」
- ▽「トイレマップ：車いす対応、県内 70 施設を紹介／佐賀県」
- ▽「メール 110 番「対話式」に改善／京都府警」
- ▽「税制創設決定／バリアフリー改修促進税制」
- ▽「『障害のある方への接遇マニュアル』の改訂版（第 2 版）を発行／東京都」

◇募集

- ▽「平成 19 年度 新規維持会員募集のご案内／日本規格協会」
- ▽「2007 年度上半期助成金／木口ひょうご地域振興財団」

◇報告書・書籍紹介

- ▽『バリアフリー・デザイン・ガイドブック 2007－2008
実例でわかる福祉住環境』
- ▽『障害者自立支援基本法令集 平成 18 年 10 月版』
- ▽『障害学研究 2』
- ▽『共生のための技術哲学「ユニバーサルデザイン」という思想』

◇報告会・発表会・イベント

- ▽「第 71 回かわさきデザインフォーラム／川崎市」
- ▽「平成 18 年度『高優賃コーディネーター養成研修会』開催／高齢者住宅財団」
- ▽「住宅部品のトレーサビリティ管理システム シンポジウム開催のご案内」
- ▽「EST 普及推進フォーラム開催」
- ▽「シニアライフ エキスポ 2007 / SENIOR LIFE EXPO 2007」

◆情報

▼「電気通信アクセシビリティガイドラインの国際標準化／総務省」

1 月 13 日付けで、ITU-T（国際電気通信連合の電気通信標準化部門）において日本提案により審議が進められてきた電気通信アクセシビリティガイドラインが、ITU-T の勧告として承認された。本ガイドラインは、高齢者や障害者が、障害や心身の機能の状態にかかわらず、固定電話、携帯電話、FAX などの電気通信機器やサービスを円滑に利用できるよう、電気通信機器・サービスの提供者が企画・開発・設計・提供等を行う際に配慮すべき

事項を示したものの。総務省としては、引き続き、本ガイドラインの原案作成団体である情報通信アクセス協議会と連携し、国内に向けた周知・普及活動を実施するなど、電気通信機器やサービスにおけるアクセシビリティ向上を促進するための取組を積極的に推進していく。

http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/070117_2.html

(総務省・2007年1月17日)

▼「インターネット版 全国車いす宿泊ガイド／全脊連」

本年6月から車いすを利用する障害者と高齢者のための施設情報を掲載している「インターネット版 全国車いす宿泊ガイド」の運用を開始。

(社)全国脊髄損傷者連合会 <http://www.zensekiren.jp/>

詳細：<http://www.raqoo.jp/sij/>

(交通エコロジー・モビリティ財団 <http://www.ecomo.or.jp/>)

▼「耳マーク掲示／りんかい線」

東京臨海高速鉄道（りんかい線）では、各駅窓口に各駅（大崎駅を除く）窓口に「耳マーク」をデザインしたステッカーを掲出。当社駅窓口では、筆談によるご案内を行うなどコミュニケーションの円滑化に努める。

東京臨海高速鉄道(株) <http://www.twr.co.jp/>

(交通エコロジー・モビリティ財団 <http://www.ecomo.or.jp/>)

▼「異常時案内用ディスプレイ設置／JR 東日本」

輸送障害発生時により分かりやすい情報提供を行うため、3月までに首都圏主要駅19駅に、50インチディスプレイによる異常時案内用ディスプレイを設置し、地図式表示による運行情報を提供し、案内の充実を図る。

東日本旅客鉄道(株) http://www.jreast.co.jp/press/2006_2/20061205.pdf

(交通エコロジー・モビリティ財団 <http://www.ecomo.or.jp/>)

▼「『手話』授業の特区申請へ／東京都」

学校教育法では、「手話」は教科として認められておらず、聴覚に障害のある子どもたちが通う学校でも、「手話」はあくまで補助的な表現手段にとどまっている。国語や算数などの授業でも、相手の唇の動きを読み取ることが中心で、授業になじめず手話による教育を行うフリースクールを選ぶ子どもたちもいる。このため、都では「手話」を正規の教科として教え、授業も手話で行う「特別支援学校」を設置できるよう、来週にも政府に対し構造改革特区の計画を申請することになった。計画では、品川区でフリースクールを運営するNPO法人が学校法人を作り、来年をめどに幼稚園と小学校を設立するということで、実現すれば全国でも初めて。

(NHK ニュース・2007年1月19日)

▼「トイレマップ：車いす対応、県内70施設を紹介／佐賀県」

国交省佐賀国道事務所は、県内の国道や県道で利用できる車いす対応トイレを紹介する「バリアフリートイレマップ（佐賀県版）」を発行した。障害者や高齢者が気軽に安心して

て車で外出できるようにするのが目的。関係する市町や道の駅、サービスエリアなどに設置する。マップでは約 70 施設を紹介している。施設の全景写真、駐車場からトイレまでの概略図、施設の設備などについて表示している。

(毎日新聞・2007 年 1 月 12 日)

▼「メール 110 番「対話式」に改善／京都府警」

聴覚・言語障害者が携帯電話のメール機能で通報する「メール 110 番」を、1 月 10 日から、通報者と警察でやり取りできる「対話式」に改めた。通報者が一方的に送信するシステムに比べて「より早く正確な情報を得られる。いたずらメールも防げる」としている。新しい対話式は指定されたアドレスに接続すると、質問事項が画面に表記される。通報者は画面に従って事件か事故かを選び、発生場所やけが人の有無、事案の内容などを入力して送信する。府警は受信の確認メールを送り返し、事案によっては通報者に問い合わせる。

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20061226-00000026-kyt-l26>

(京都新聞・2006 年 12 月 26 日)

▼「税制創設決定／バリアフリー改修促進税制」

税制改正で、住宅のバリアフリー改修促進税制の創設が決まった。07 年 4 月から 08 年 12 月までに、廊下幅の拡幅、屋内の段差解消、手すり設置などのバリアフリー改修を行った場合、住宅ローン残高の 2% を 5 年間にわたり所得税額から控除する。また現行の住宅ローン減税の対象となる増改築等の範囲に、バリアフリー改修工事を追加し、いずれかの税制で有利な方を選択できるようにする。新税制によって、リフォーム需要の拡大も期待できそうだ。住宅のバリアフリー改修促進税制は、高齢者らが安心して快適に自立した生活を送ることができる環境の整備を促進することが狙い。

<http://www.kentsu.co.jp/tokyo/news/p03117.html>

(建築新聞社・2006 年 12 月 22 日)

▼『「障害のある方への接遇マニュアル」の改訂版（第 2 版）を発行／東京都」

東京都心身障害者福祉センターは、障害のある人が社会生活のさまざまな場面で、各種の窓口や交通機関などを利用する際に、不安や不快な思いを抱くことなく、主体的に用件を済ませることができるように支援するため「障害のある方への接遇マニュアル」の改訂版（第 2 版）を発行した。障害のある人と接する人々が、障害を正しく理解し、適切な対応を行えるように、障害に関する基礎知識と接遇の配慮などについて書かれている。冊子については、都民情報ルーム（都庁第一本庁舎 3 階）にて、1 部 920 円で販売する。

<http://www.fukushi.com/news/2006/12/061220-b.html>

(ふくしチャンネル・2006 年 12 月 20 日)／大阪」

=====

◆募集

▼「平成 19 年度 新規維持会員募集のご案内／日本規格協会」

標準化とは、皆様のビジネス活動の効率化、円滑化、安定した発展をもたらすために、また、私たちの生活にさらなる安心、安全、安定をもたらすために、必要不可欠なことです。そしてこうした標準化の恩恵とは、出来るだけ幅広く多くの方々にもたらされるものでなければなりません。当協会の事業目的に対してご理解いただける方に、維持会員とし

てご加入いただき、私どもが取り組む標準化推進活動をご支援いただくための制度です。
皆様の維持会員制度へのご参加を、お待ち申し上げております。

詳細：(財)日本規格協会 <http://www.jsa.or.jp/standard/kaiin01.asp>

問い合わせ：E-mail：csd@jsa.or.jp 電話：(03)3583-8002

▼「2007 年度上半期助成金／木口ひょうご地域振興財団」

市民参加型福祉の増進と振興をはかるため、障害者福祉に関わる先駆的・開拓的な事業への支援を行う対象団体を募集。対象となる事業は、「一般助成」と 2007 年度上半期より、「講習会・講演会助成」枠を設けており、障害者等地域福祉推進のための啓発・人材育成などを目的とした各種講習会・講演会などの企画・開催も対象とする。助成金額は、「一般助成」枠が、助成総額 1,800 万円を予定。1 件当たりの上限は 100 万円。また、「講習会・講演会助成」枠が、助成総額 200 万円を予定。1 件当たりの上限は 20 万円としている。

詳細：(財)木口ひょうご地域振興財団 <http://www.warp.or.jp/~ikiguchi/>

<http://www.fukushi.com/news/2006/12/061225-b.html>

(ふくしチャンネル・2006 年 12 月 18 日)

=====

◆報告書・書籍紹介

▼『バリアフリー・デザイン・ガイドブック 2007－2008

実例でわかる福祉住環境』

特集は、元気になるための住まい、バリアフリー改修事例集、交通事故・難病による改修事例。また、入浴・排泄、就寝、食事などのゾーン別バリアフリー商品総覧、全国自治体の融資・助成・貸付情報なども満載。

編集：バリアフリー・デザイン・ガイドブック編集部

発行：三和書籍 本体価格：3,300 円 ISBN：4-86251-009-4

▼『障害者自立支援基本法令集 平成 18 年 10 月版』

障害者自立支援法の基本がわかる法令集。法律の委任条項の関係が一目でわかるように整理・編集。平成 18 年 10 月から実施の新サービス体系の障害福祉サービスに関する人員・設備・運営基準をいち早く収載。

発行：中央法規出版 本体価格：2,600 円 ISBN：4-8058-4705-0

▼『障害学研究 2』

障害者自立支援法や心神喪失者等医療観察法など、障害者の生活を劇的に変えてしまうかもしれない法が作動し始めた時代に創刊された、障害学の学会誌。特集「障害学会第 2 回大会企画」ほかを収録。

編集：障害学研究編集委員会 発行：障害学会 本体価格：2,500 円 ISBN：4-7503-2465-5

▼『共生のための技術哲学「ユニバーサルデザイン」という思想』

「ユニバーサルデザイン」という新しい文化的・社会的要請に対して、どう考えていくべきなのか。障害者をふくめた「共生」の多様性という課題に、哲学的・思想的に応答し、新しい「文化モデル」を探究する。

村田 純一（むらた・じゅんいち）編 発行：未来社

本体価格:1,800 円 ISBN: 4-624-01173-2

=====

◆ 報告会・発表会・イベント

▼ 「第 71 回かわさきデザインフォーラム／川崎市」

今回は、有明にあるパナソニックセンターで、2010 年の暮らしを想定し、家電製品から住宅設計・設備まで「家まるごと」の ECO & UD を提案しているイーユー・ハウス (<http://panasonic.co.jp/euhouse>) とビジネスフロア、環境フロアの見学も行う。ユニバーサルデザインに力を入れている松下電器グループの実際を知る最良の機会。

テーマ：『松下グループのユニバーサルデザインへの取り組み』

講師：松下電器産業(株)パナソニックデザイン社直轄 UD チーム 市原増夫氏

日時：1 月 24 日(水) 13:30～15:30 見学 15:30～17:00 講演 17:00～18:30 交流会

会場：パナソニックセンター東京 ゆりかもめ国際展示場正面駅 各徒歩 3 分

会費：無料／交流会参加者のみ 2,000 円（学生 1,000 円）

定員：40 名（先着順）

申込み・詳細：川崎市経済局産業振興部 新産業創出担当

<http://www.kawasaki-net.ne.jp/design/kdf/forum/forumindex.htm>

松下電器産業(株) <http://panasonic.co.jp/>

本件は終了しました。

▼ 「平成 18 年度『高優賃コーディネーター養成研修会』開催／高齢者住宅財団」

高齢者向け優良賃貸住宅（高優賃）は、高齢者が安心して暮らせる良質な賃貸住宅として、地方公共団体が認定し助成を行う住宅。高優賃の事業のコーディネートができる人を養成することを目的として、国の最新動向の紹介や供給計画策定に係る具体的な手法等を解説する研修会を開催する。

<開催概要>

日時：平成 19 年 2 月 6 日(火) 10:30～16:40

会場：メルパルク東京 募集人数：100 名程度

参加費：一般参加者 20,000 円（テキスト代込） 財団賛助会員・出捐団体：15,000 円（テキスト代込）

詳細：http://www.koujuuzai.or.jp/html/page03_10.html

((財)高齢者住宅財団)

本件は終了しました。

▼ 「住宅部品のトレーサビリティ管理システム シンポジウム開催のご案内」

住まいの安心・安全を確保する上で、住宅を構成する住宅部品のトレーサビリティが求められている。住宅部品のトレーサビリティ管理システムは、IC タグを使用して、住宅部品等のメーカーと住宅管理者の共通プラットフォームにより、住宅部品のトレーサビリティを確保するもの。

日時：2 月 21 日(水) 13 時 30 分（開演） 場所：メルパルク東京

定員：1000 名（先着順、参加費無料）

問い合わせ：財団法人ベターリビング <http://www.blhp.org/>

本件は終了しました。

▼「EST 普及推進フォーラム開催」

EST(環境的に持続可能な交通)の普及促進を図るため、講演、パネルディスカッション、ラウンドテーブル等を開催する。

日時：2月14日(水) 13:00～19:00 (12:30 受付開始)

場所：六本木アカデミーヒルズ 49 タワーホール、カンファレンスルーム 3.4.5

参加費：無料 詳細・申込み：<http://www.estfukyu.jp/>

主催：環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会

問い合わせ先：EST 委員会事務局 交通エコロジー・モビリティ財団 市丸・岡本

TEL03-3221-7636

(交通エコロジー・モビリティ財団 <http://www.ecomo.or.jp/>)

本件は終了しました。

▼「シニアライフ エキスポ 2007 / SENIOR LIFE EXPO 2007」

シニア世代がいきいきと安心して生活するための社会を実現するために、関連製品・情報を一堂に集め、業界関係者やシニア世代の情報交流、課題解決を目指す場を提供する。

会期：3月28日(水)～29日(木)

場所：東京ビッグサイト 東5ホール

詳細：<http://www.seniorexpo.jp/ja/index.html>

(交通エコロジー・モビリティ財団 <http://www.ecomo.or.jp/>)

本件は終了しました。

=====

アクセシブルデザイン通信 第15号・発行：アクセシブル デザイン フォーラム

・発行年月日：平成19年1月23日 引き続き、情報の提供をお願いいたします。

FZG01477@nifty.com (星川)

=====